

【米国株の道標（みちしるべ）】

投資戦略部 グローバル株式戦略グループ
八木 菜摘

米24年7-9月期（3Q）決算まとめ

～年末ラリーに向けて好業績企業に注目～

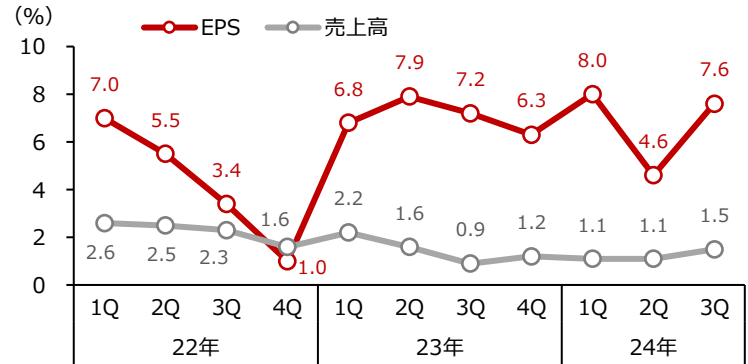
- S&P500企業の7-9月期決算は前年同期比8.9%増益着地見込み
- コミュニケーション・サービス、情報技術、金融、資本財・サービス等が好調
- 好業績かつ決算後の投資家の反応も良好だった銘柄群に注目

S&P500企業の7-9月期は前年同期比8.9%増益着地見込み

S&P500企業の24年7-9月期（3Q）決算発表が一巡した。堅調な米国経済を背景に企業業績も安定成長が続き、11月22日時点で売上高は前年同期比+5.3%、EPSは同+8.9%の着地見通しだ。決算発表シーズン初期の10月4日時点の見通し（売上高:同+4.0%、EPS:同+5.0%）から改善しているほか、市場予想と実績の乖離率を示すサプライズファクターも売上高、EPSともに2Qから拡大（図表1）。市場予想を上回る業績を発表した企業への平均的な株価反応も概ねポジティブで、投資家のセンチメントは良好とみられる。

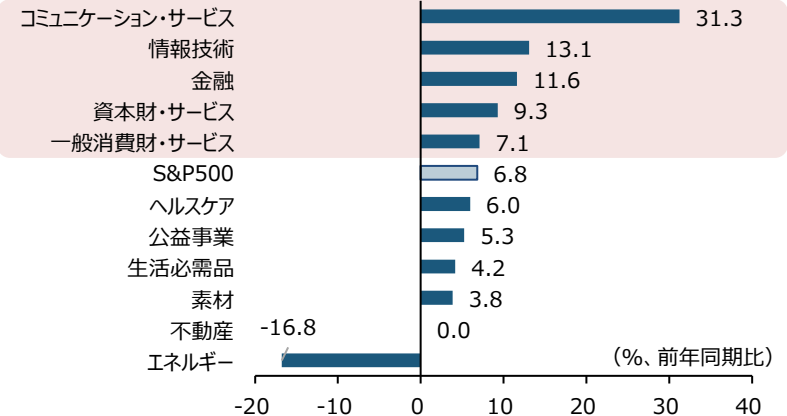
セクター別では、コミュニケーション・サービス、情報技術、金融、資本財・サービス等で力強い利益成長が目立つ（図表2）。コミュニケーション・サービスでは、大統領選前のTV向け政治広告の増加や、動画配信事業の好調が業績に寄与した。ソフトウェア、ハードウェア、半導体関連の3つのサブセクターを持つ情報技術において、EPS伸び率（中央値）はソフトウェアが同+14.6%、ハードウェアが同+12.3%、半導体関連は同+9.4%と、半導体関連がやや見劣りする。半導体関連は、AI向け等は好調な一方、産業や自動車市場の低迷により、主にアナログ半導体関連企業で減益が続いたことが重しとなったとみられる。その他のサブセクターでは、不動産管理・開発やヘルスケア機器・サービスなども2桁増益となった。

図表1: 売上高・EPSともにポジティブサプライズが拡大
S&P500 売上高とEPSのサプライズファクター*の推移



出所:LSEG Workspace 作成:岡三証券 11月22日現在
*実績がアナリスト予想を上回った度合いを示す

図表2: コミュニケーション・サービスなどの利益成長が堅調
S&P500*セクター別 3QのEPS伸び率の中央値



出所:LSEG Workspace 作成:岡三証券 11月25日現在
*10/4~11/25の間に決算発表を行い、かつデータ取得可能な企業が対象

【米国株の道標（みちしるべ）】

2025年はより多くの企業が“AIで稼ぐ”体質に

他方、依然としてS&P500全体の業績成長の牽引役は超大型企業であるマグニフィセント7だ。3QのEPS伸び率は、7社の中央値が前年同期比36.8%であるのに対し、その他493社は同6.0%とその差は大きい（図表3）。特にクラウド大手やエヌビディアは、AIのベースとなる大規模言語モデルや半導体の開発によってAI事業をいち早く収益化することに成功した。足元では、AIを活用した製品などの市場投入が進んでおり、2025年はより多くのソフトウェアやハードウェア企業などがAIで稼げる体質へ変化していくことが期待されよう。

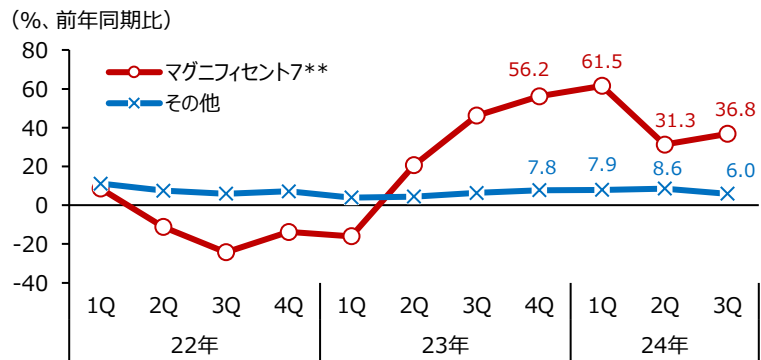
また、こうしたAI製品やサービスの社内実装が進むことで、今後は小売やヘルスケア、金融、製造業など幅広い業界で利益率の改善が進むだろう。現時点で、S&P500企業は来期に一段の利益成長が見込まれているが（図表4）、AI活用による生産性の改善が理由の1つとして挙げられそうだ。新技術に対する規制緩和が期待される次期政権では、AIブームの加速が見込めよう。

好業績かつ投資家の反応も良好だった銘柄に注目

次頁には、当社取扱い銘柄のうち、①時価総額100億ドル以上、②3Qの売上高とEPS実績が市場予想を上ブレ、③決算翌営業日後に株価が3%以上上昇した銘柄を抜粋した。年末ラリーで一段の上昇が見込めるこれらの銘柄群に注目したい。

図表3: AIブームを追い風に超大型企業の高成長は続く

S&P500* マグニフィセント7**とその他企業のEPS伸び率中央値



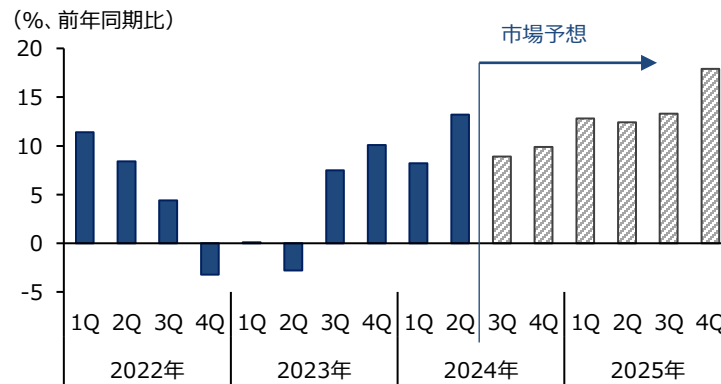
出所:LSEG Workspace 作成:岡三証券 11月25日現在

*10/4~11/25の間に決算発表を行い、かつデータ取得可能な企業が対象

**アップル、アマゾン・ドット・コム、アルファベット、メタ・プラットフォームズ、マイクロソフト、エヌビディア、テスラ

図表4: 来期は一段の利益成長が見込まれる

S&P500 EPS伸び率（前年同期比）の推移



出所:LSEG Workspace 作成:岡三証券 11月22日現在

【米国株の道標（みちしるべ）】

図表5: 参考銘柄

当社取扱い銘柄のうち、11/25時点で決算発表済みの企業が対象

ティッカー	銘柄名	セクター	産業グループ	時価総額 (億ドル)	主な決算ポイント
AMZN	アマゾン・ドット・コム	一般消費財・サービス	一般消費財・サービス流通・小売り	21,182	3本柱であるクラウド、EC、広告の全事業で高い増収率
JPM	JPモルガン・チェース	金融	銀行	7,047	投資銀行業の前年同期比増収率が市場予想を大幅に上ブレ
NFLX	ネットフリックス	コミュニケーション・サービス	メディア・娯楽	3,700	サブスク会員数の市場予想を上回る増加が続く
TMUS	ティーモバイル US	コミュニケーション・サービス	電気通信サービス	2,784	新規契約者の獲得と既存契約者の維持のどちらも好調
NOW	サービスナウ	情報技術	ソフトウェア・サービス	2,169	企業向けAIアシスタントなどのAI製品の収益化が進む
ISRG	インテュイティブ・サージカル	ヘルスケア	ヘルスケア機器・サービス	1,911	新型手術支援ロボット「ダビンチ5」の導入や研究が進む
PLTR	パラティア・テクノロジーズ A	情報技術	ソフトウェア・サービス	1,472	自社製品の研修サービス等の戦略が大口契約獲得に貢献
MU	マイクロン・テクノロジー	情報技術	半導体・半導体製造装置	1,158	AI開発向け半導体メモリの需要強く、2025年分まで完売
CDNS	ケイデンス・デザイン・システムズ	情報技術	ソフトウェア・サービス	857	AIを活用した設計自動化ツールの売上が堅調
MSI	モトローラ・ソリューションズ	情報技術	テクノロジー・ハードウェアおよび機器	816	主に米国政府からの無線製品の契約獲得や更新が好調
FTNT	フォーティネット	情報技術	ソフトウェア・サービス	714	セキュリティとネットワークを統合したサービスの導入が進む
TEAM	アトラシアン A	情報技術	ソフトウェア・サービス	680	企業のクラウド移行により、プロジェクト管理ツール等が好調
SNOW	スノーフレイク A	情報技術	ソフトウェア・サービス	575	AI企業アンソロピックと提携し、製品にAI新機能を統合
LNG	シェニール・エナジー	エネルギー	エネルギー	490	アジアでのLNG需要増で通期の利益予想を上方修正
AXON	アクソン・エンタープライズ	資本財・サービス	資本財	472	米国で警察等が使うユーザー銃の売上高が前年同期比36%増
CBRE	CBREグループ	不動産	不動産管理・開発	424	利下げ開始による不動産資本市場の回復期待が強い風
VRSK	ベリスク・アナリティクス	資本財・サービス	商業・専門サービス	412	主に損保がリスク評価に使うデータ分析製品が好調
DECK	デッカーズ・アウトドア	一般消費財・サービス	耐久消費財・アパレル	299	ブーツ「UGG」やランニングシューズ「HOKA」などが人気
RDDT	レディット A	コミュニケーション・サービス	メディア・娯楽	249	膨大なユーザーデータを利用した広告事業の成長に期待
Z	ジロー・グループ C	不動産	不動産管理・開発	195	賃貸分野が好調で、物件掲載数は9月に業界トップに

出所:LSEG Workspace 作成:岡三証券 11月25日現在 時価総額順

重要な注意事項

免責事項

- ・本レポートは、投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。また、本レポート中の記載内容、数値、図表等は、本レポート作成時点のものであり、事前の連絡なしに変更される場合があります。なお、本レポートに記載されたいかなる内容も、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。
- ・本レポートは、岡三証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。企業が過去の業績を訂正する等により、過去に言及した数値等を修正することがありますが、岡三証券がその責を負うものではありません。
- ・岡三証券及びその関係会社、役職員が、本レポートに記されている有価証券について、自己売買または委託売買取引を行う場合があります。岡三証券の大量保有報告書の提出状況については、岡三証券のホームページ(<https://www.okasan.co.jp/>)をご参照ください。

<有価証券や金銭のお預かりについて>

株式、優先出資証券等を当社の口座へお預かりする場合は、口座管理料をいたしません。外国証券(円建て債券および国内の金融商品取引所に上場されている海外ETFを除きます。)をお預かりする場合には、1年間に3,300円(税込み)の口座管理料をいただきます。ただし、電子交付サービスを契約している場合には、口座管理料は1年間に2,640円(税込み)とします。なお、当社が定める条件を満たした場合は外国証券の口座管理料を無料といたします。上記以外の有価証券や金銭のお預かりについては料金をいたしません。証券保管振替機構を通じて他社へ株式等を口座振替する場合には、口座振替する数量に応じて、1銘柄あたり6,600円(税込み)を上限として口座振替手数料をいただきます。

お取引にあたっては「金銭・有価証券の預託、記帳及び振替に関する契約のご説明」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

<株式>

- ・株式(株式・ETF・J-REITなど)の売買取引には、約定代金(単価×数量)に対し、最大1.265%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。ただし、株式累積投資は一律1.265%(税込み)の売買手数料となります。国内株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・外国株式の海外委託取引には、約定代金に対し、最大1.518%(税込み)の売買手数料をいただきます。外国株式の国内店頭(仕切り)取引では、お客様の購入および売却の単価を当社が提示します。この場合、約定代金に対し、別途の手数料および諸費用はかかりません。
- ※外国証券の外国取引にあたっては、外国金融商品市場等における売買手数料および公租公課その他の賦課金が発生します(外国取引に係る現地諸費用の額は、その時々々の市場状況、現地情勢等に応じて決定されますので、その合計金額等をあらかじめ記載することはできません)。外国株式を募集等により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・株式は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による株価の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・株式は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、株価が変動することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・また、外国株式については、為替相場の変動によって、売却後に円換算した場合の額が下落することによって損失が生じるおそれがあります。
- ・REITは、運用する不動産の価格や収益力の変動、発行者である投資法人の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により価格や分配金の変動し、損失が生じるおそれがあります。

<債券>

- ・債券を募集・売出し等により、または当社との相対取引により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。なお、取引価格には、販売・管理等に関する役務の対価相当額が含まれております。
- ・債券は、金利水準、株式相場、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による債券価格の変動によって損失が生じるおそれがあります。
- ・債券は、発行体やその他の者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等により、債券価格が変動することによって損失が発生するおそれがあり、また、元本や利子の支払いの停滞もしくは支払い不能の発生または特約による元本の削減等のおそれがあります。
- ・金融機関が発行する債券は、信用状況の悪化により本拠所在地国の破綻処理制度が適用され、債権順位に従って元本や利子の削減や株式への転換等が行われる可能性があります。ただし、適用される制度は発行体の本拠所在地国により異なり、また今後変更される可能性があります。

<個人向け国債>

- ・個人向け国債を募集により購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。個人向け国債を中途換金する際は、次の計算によって算出される中途換金調整額が、売却される額面金額に経過利子を加えた金額より差し引かれます(直前2回分の各利子(税引前)相当額×0.79685)。
- ・個人向け国債は、安全性の高い金融商品であります。発行体である日本国政府の信用状況の悪化等により、元本や利子の支払いが滞ったり、支払い不能が生じるおそれがあります。

<転換社債型新株予約権付社債(転換社債)>

- ・国内市場上場転換社債の売買取引には、約定代金に対し、最大1.10%(税込み)(手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円(税込み))の売買手数料をいただきます。転換社債を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみをお支払いいただきます。
- ・転換社債は転換もしくは新株予約権の行使対象株式の価格下落や金利変動等による転換社債価格の下落により損失が生じるおそれがあります。また、外貨建て転換社債は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれがあります。

<投資信託>

- ・投資信託のお申込みにあたっては、銘柄ごとに設定された費用をご負担いただきます。
お申込時に直接ご負担いただく費用:お申込手数料(お申込金額に対して最大3.85%(税込み))
保有期間中に間接的にご負担いただく費用:信託報酬(信託財産の純資産総額に対して最大年率2.254%(税込み))
換金時に直接ご負担いただく費用:信託財産留保金(換金時に適用される基準価額に対して最大0.5%)
その他の費用:監査報酬、有価証券等の売買にかかる手数料、資産を外国で保管する場合の費用等が必要となり、商品ごとに費用は異なります。お客様にご負担いただく費用の総額は、投資信託を保有される期間等に応じて異なりますので、記載することができません(外国投資信託の場合も同様です)。
- ・投資信託は、国内外の株式や債券等の金融商品に投資する商品ですので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が下落することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資信託は、組入れた有価証券の発行者(或いは、受益証券に対する保証が付いている場合はその保証会社)の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化等による、対象組入れ有価証券の価格の変動によって基準価額が変動することにより、損失が生じるおそれがあります。
- ・上記記載の手数料等の費用の最大値は、今後変更される場合があります。

<ファンドラップ>

手数料等の諸費用について

ファンドラップにおいて、直接お支払いいただく費用は、保有する、当社が運用方針に則して選定した国内公募投資信託(以下「投資対象ファンド」といいます。)の時価評価額に対して最大1.65%(年率・税込み)となります。投資対象ファンドは、ほかの投資信託を投資対象とするファンド・オブ・ファンズとなっており、実質的な費用は、投資対象ファンドの信託報酬に最終投資先の運用管理費用(信託報酬)等を加算した費用を間接的にご負担いただきますが、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご確認ください。

主な投資リスクについて

投資一任契約とは、当事者の一方が、相手方から、金融商品の価値等の分析に基づく投資判断の全部または一部を一任されるとともに、当該投資判断に基づき当該相手方のための投資を行うのに必要な権限を委任されることを内容とする契約です。

- ・投資対象ファンドは、実質的に国内外の値動きのある有価証券等により運用を行いますので、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の変動による組入れ有価証券の値動き等に伴い、投資対象ファンドの基準価額も変動します。これらの要因により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。
- ・投資対象ファンドに実質的に組み込まれた株式や債券等の発行者の倒産や信用状況等の悪化により投資対象ファンドの基準価額が下落し、損失が生じるおそれがあります。

<信用取引>

信用取引には、約定代金に対し、最大1.265%（税込み）（手数料金額が2,750円を下回った場合は2,750円（税込み））の売買手数料、管理費および権利処理手数料をいただきます。また、買付けの場合、買付代金に対する金利を、売付けの場合、売付株券等に対する貸株料および品貸料をいただきます。委託保証金は、売買代金の30%以上で、かつ300万円以上の額が必要です。信用取引では、委託保証金の約3.3倍までのお取引を行うことができるため、株価の変動により委託保証金の額を上回る損失が生じるおそれがあります。

○2037年12月までの間、復興特別所得税として、源泉徴収に係る所得税額に対して2.1%の付加税が課税されます。

○金融商品は、個別の金融商品ごとに、ご負担いただく手数料等の費用やリスクの内容や性質が異なります。金融商品取引のご契約にあたっては、あらかじめ当該契約の「契約締結前交付書面」（もしくは目論見書及びその補完書面）または「上場有価証券等書面」の内容を十分にお読みいただき、ご理解いただいたうえでご契約ください。

ファンドラップの申込みの際には「投資一任契約書（兼契約締結時交付書面）」「サービス約款」等で契約内容をご確認ください。

○自然災害等不測の事態により金融商品取引市場が取引を行えない場合は売買執行が行えないことがあります。

【日本以外の地域における本レポートの配布】

・香港における本レポートの配布：本レポートは、香港証券先物委員会（SFC）の監督下にある岡三国際（亜洲）有限公司によって、SFCに規定される適格機関投資家（PI）に配信されたものです。本レポートに関するお問い合わせは岡三国際（亜洲）有限公司にお願いします。

・米国内における本レポートの配布：本レポートは岡三証券が作成したものであり、1934年米国証券取引所法に基づく規則15a-6に規定される米国主要機関投資家のみにも配信されたものです。本レポートは、受領者及びその従業員が使用することを目的として配信しております。岡三証券は、米国内における登録業者ではないため、米国居住者に対しブローカー業務を行いません。本レポートのアナリストは米国で活動をしていないため、米国のリサーチ・アナリストとして登録されておらず、資格も有しておりません。したがって、当該アナリストは、米国金融規制機構（FINRA）規則の適用の対象ではありません。

・その他の地域における本レポートの配布：本レポートは参照情報の提供のみを目的としており、投資勧誘を目的としたものではありません。本レポートの受領者は、自身の投資リスクを考慮し、各国の法令、規則及びルール等の適用を受ける可能性があることに注意をする必要があります。地域によっては、本レポートの配布は法律もしくは規則によって禁じられております。本レポートは、配布や発行、使用等を行うことが法律に反したり、岡三証券に何らかの登録やライセンスの取得が要求される国や地域における国民や居住者に対する配布、使用等を目的としたものではありません。

※本レポートは、岡三証券が発行するものです。本レポートの著作権は岡三証券に帰属し、その目的いかんを問わず無断で本レポートを複写、複製、配布することを禁じます。

岡三証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第53号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会

一般社団法人日本暗号資産取引業協会

（2024年10月改定）